



# 2016年度の技能評価システム 移転促進事業実施状況



研修部

## 1. 技能評価システム移転促進事業の概要

技能評価システム移転促進事業は、政府開発援助の一環として日本の技能評価システムをアジア各国へ移転・普及し、当該国の人材養成に資する事業として2002年より継続実施されています。技能職種は、金属加工、機械、電気、建設等、多岐にわたり、2012年より情報配線施工も対象となりました。

情報配線施工の技能評価システムは、従来から国内で行われている特定非営利活動法人 高度情報通信推進協議会が試験機関の指定を受けて実施しているものに準じており、移転国における技能検定各級は日本国内の検定レベルにほぼ等しいものとなっています。

本事業は、その仕組み、事例を移転し、当該国にて自立的に運営できるようにすることが目的です。

## 2. 情報配線施工技能検定の内容

技能検定3級は情報配線施工の基本作業が行える入門レベルを想定し、情報通信会社新入社員および高校生（情報通信科等専攻）が合格できるものとして策定されています。検定は学科と実技があり、学科試験は理論、工具部材知識、光とメタル配線施工、測定試験等の項目からなり基礎レベルの内容から30問出題されます。実技試験はペーパー実技試験20問および光ファイバ芯線をトレイに捻じれなく収納できること（写真1）、メタルではLANケーブル両端にモジュラジャック/プラグ

を取り付け導通試験を行う（写真2）内容となっています。

2級は施工にあたって専門的な知識を持ちつつ指導的立場に立てる人のレベルで、ある程度の業務経験・知識を要します。検定は3級同様ですが、学科試験はより情報通信システムの実践面での理解を必要とする40問が出題され、実技試験も光ファイバでは接続と測定（写真3）、メタルでも多様な配線形態（写真4）をスピーディに施工する技能が求められます。

## 3. 2016年度のITEAにおける支援活動

ITEAにおける従来からの支援活動としては、

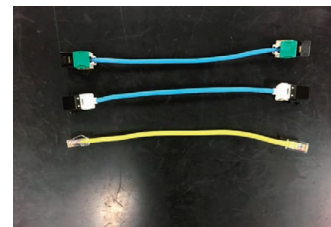
- ① 該当国の技術者をITEA東日本研修センタに招へいし、技術移転研修を実施
  - ② ITEAおよび会員会社からエキスパートを現地派遣し、より実践的な技術移転指導
- の2種類に大別されます。

2016年度の取組みは、12月13日～23日にベトナムとカンボジアにエキスパートが赴き、情報配線施工

3級ならびに新たに2級に関する技術移転が主となっています。

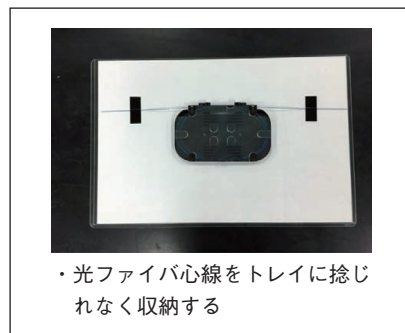
具体的には、3級については当該国での技能検定員の養成が図られてきたことから、現地の検定員が被検定員を集め自立的に検定を実施するというトライアルを行うことの支援です。

ベトナムはベトナム郵電公社（VNTP）とベトナム国郵電公社第一郵電訓練センター（PTTC1）、カンボジアはテレコムカンボジア（TC）とプノンベン科学技術大学（PPIT）の方々が検定員となり、それぞれ約10名に対し情報配線施工



- ・ 2本のLANケーブルに2種類のモジュラジャックを取付け
- ・ 1本のLANケーブルにモジュラプラグを取付け
- ・ 3本を接続し導通試験を行う

写真2 3級技能実技出来形：メタル



- ・ 光ファイバ芯線をトレイに捻じれなく収納する

写真1 3級技能実技出来形：光



- ・ 2個の光接続箱に光インドアケーブルを配線しSCコネクタを接続のうえ可視光線による受光試験を行う

写真3 2級技能実技出来形：光

3級の評価を実施しました。

結果として、3級トライアルは現地検定員における運営等に問題はないものの、日本方式の減点法による評価方法に対し、ベトナムでは加点法を用いるなど、通信設備として品質上の不備があっても減点されず、重大欠点があっても加点合計が基準を満たしてしまうケースも発生しました。

そこで再度、評価基準、評価方式は施工品質を満足することを重視した内容であること、また、評価項目、評価内容を厳正、かつ公平、公正に実施することなどを指摘し、より品質良くかつ円滑に技能検定が図られ

るよう促しました。なお、カンボジアでは、評価者に対しベトナムでの事例を用い、評価者の役割の重要性を再認識させることにより、トライアルでは特に指摘する事項は見受けられませんでした。

2級レベルの移転は今年度からの取組みで、上記のVNTP、PTTC1、TC、PPITの方々に2級技能評価システムの概要、学科や実技試験問題の解説ならびにデモ、そして評価者に対し模擬試験、出来形評価方法の指導等を実施しました。前述のとおり3級に比べて学科、実技とも内容がかなり高度かつボリュームも多くなることから、特に日本製の材料の

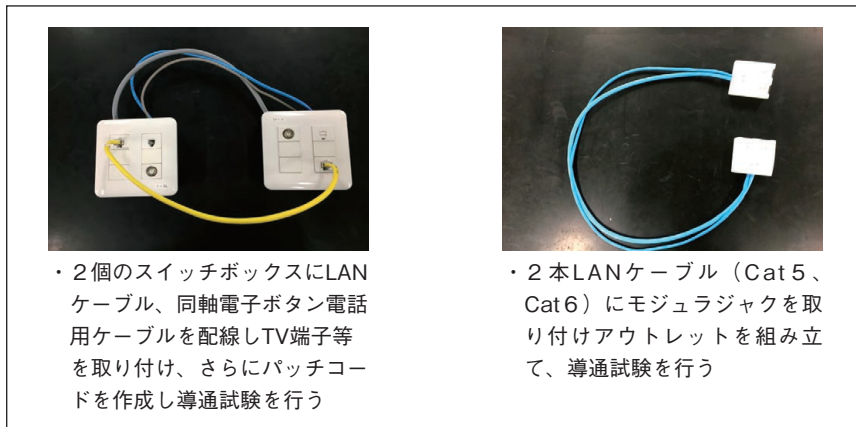
取扱いや、採点基準、評価内容が3級と比べて難しいなど、評価者が理解し自立するまでは相当の時間を要すると思われます。さらに、トライアルに向けては、光、メタル課題に用いる材料の確保（現地品を用いた試験方法への転換）や現地材料に合致した評価基準、評価内容の見直し等も必要との認識を新たにさせられました。

#### 4. 終わりに

来年度以降については政府開発援助計画が未定ですが、継続する場合は3級においては学科、実技試験ともに当該国の特色を活かした課題、テーマの反映、また検定システムそのものを継続的に運用できる仕組み作りの支援などが考えられます。

また、新たに情報配線施工の技能評価システムの導入を要望される国が出てくれば、支援対象が広がる可能性も考慮する必要があります。

ITEAとしては、今後も日本の情報通信建設技術の高さと、品質維持・向上に向けた取組みを活用し、会員各社の皆様に協力をいただきつつ支援していく考えです。



・2個のスイッチボックスにLANケーブル、同軸電子ボタン電話用ケーブルを配線しTV端子等を取り付け、さらにパッチコードを作成し導通試験を行う

・2本LANケーブル（Cat5、Cat6）にモジュラジャックを取り付けアウトレットを組み立て、導通試験を行う

写真4 2級技能実技出来形：メタル



右から4人目：協和エクシオ中央研修センター佐川所長  
同5人目：ITEA東日本研修センターアクセス部門戸田担当部長

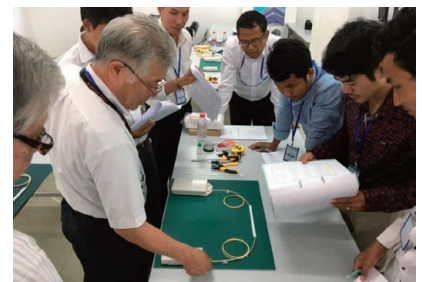


写真5 研修の様子（上段：ベトナム、下段：カンボジア）